

事務事業名	まちづくり推進事業				担当	総合政策部 プロジェクト推進課 複合交流拠点整備		
政策名	3	「にぎわいづくり」～まちの活力アップ!～			<input type="checkbox"/> 総重 (総合計画重点事業) <input type="checkbox"/> 総新 <sup>1/2</sup> (総合計画新規事業) <input type="checkbox"/> 戦拡 (総合戦略拡充事業) <input type="checkbox"/> 戦新 (総合戦略新規事業)			
施策名	2	商業の振興						
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 毎年度実施 (開始年度 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 年度～ 年度)		
法令根拠								
予算科目	1.一般会計	2.総務費	1.総務管理費	7.企画費				
予算科目								
事業概要	<p>官民連携、市民協働の取り組みである、真岡まちづくりプロジェクト「まちをつくらう」(通称まちつく)によって、中心市街地の活性化を図るとともに、若い世代を中心に、すべての人が真岡に住みたい、真岡で働きたい、真岡で子育てしたいと思えるまちの実現を図る。          令和3年度から、宇都宮大学地域デザイン科学部との共同研究事業として、まちづくりプロジェクトを開始し、令和3年度は20名、令和4年度は55名のメンバーが、中心市街地の活性化を図る企画提案と、実際に社会実験を行い、令和4年度のグッドデザイン賞、全国地域づくり推進協議会長賞を受賞した。</p>							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段 (主な活動)		④ 活動指標 (事務事業の活動量を表す指標) の推移						
4年度実績 真岡まちづくりプロジェクト(2年目) 宇都宮大学地域デザイン科学部との共同研究事業としてワークショップの開催、7チームによる社会実験の実施		名称	単位	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(見込)
		ア: 真岡まちづくりプロジェクト 社会実験	回			9	12	10
		イ: 参加団体・企業	団体			58	112	100
5年度計画 真岡まちづくりプロジェクト(3年目) 宇都宮大学地域デザイン科学部との共同研究事業として、ワークショップの開催、社会実験の実施 まちつく×(クロス)事業として、市民による企画提案、実行のサポート		ウ						
		エ						
		オ						
② 対象 (誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		⑤ 対象指標 (対象の大きさを表す指標) の推移						
市民		名称	単位	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(見込)
		ア: 真岡市民	人	79,324	78,874	78,592	77,635	77,578
		イ						
		ウ						
		エ						
		オ						
③ 意図 (この事業によって、対象をどう変えるのか)		⑥ 成果指標 (対象における意図された対象の程度) の推移						
市民協働のまちづくりの推進 中心市街地の活性化		名称	単位	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(見込)
		ア: 真岡まちづくりプロジェクトの関係人口	人			5,500	4,000	4,000
		イ						
		ウ						
		エ						
		オ						

(2) 総事業費の推移		単位	31年度(実績)	2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(見込)	
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	1,100	500	4,300
		県支出金	千円	0	0	0	360	952
		地方債	千円	0	0	0	0	0
		その他	千円	0	0	2	538	5,539
		一般財源	千円	0	0	1,110	606	0
	事業費計 (A)		千円	0	0	2,212	2,004	10,791

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地はない <input type="checkbox"/> 見直し余地がある (評価理由) 真岡市総合計画2020-2024と結びついている。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地はない <input type="checkbox"/> 見直し余地がある (評価理由) 官民連携による、市民協働のまちづくりによって、中心市街地の活性化を目指すものであり、市が行うことが妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	<input type="checkbox"/> 対象・意図を見直す必要はない <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある (評価理由) 官民連携、市民協働のまちづくりによって、関係人口の増加を目指すものであり、適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある (評価理由) 民間の創意工夫を活かした提案によって、まちづくりを進めていく必要があることから、より多くの市民が関わることで、事業の多様性や、人材の育成を図る余地がある。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統合や連携はできないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業と統合・連携ができる(類似の事務事業名： ) <input type="checkbox"/> 類似事業と統合・連携できない(類似の事務事業名： ) <input type="checkbox"/> 類似事業はない (評価理由) 学生と地域の大人が協働し、中心市街地の活性化の提案を行い、社会実験として実行するプロジェクトであり、類似事業はない。
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある (評価理由) 官民連携による取り組みによって、事業費を抑制して実行している。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し( <input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 ) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 課題、課題の克服の方向性 まちづくりプロジェクトの活動がより認知、理解されるように、周知を強化していく。																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える																								
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							